

霧島市国際交流員 (CIR) 及び  
外国語指導助手 (ALT) による情報誌

#### \* 国際交流員 林佳弥



### 「世界初」 人型ロボット運動会

#### 北京で開催

2025年8月15日に中国・北京市で、世界初の「人型ロボット運動会」が開幕しました。北京市政府などが主催し、日本を含む世界16か国から約280チーム、500体を超える人型ロボットが参加しました。会場は2022年北京冬季五輪の国家スピードスケート館「アイスリボン」で、14日夜に盛大な開会式が行われました。大会は8月17日まで開催され、陸上競技、サッカー、格闘技、ダンスなど26種目が予定されています。

出典:日テレNEWS



### 「世界初」 “人型”ロボット運動会

500体以上が熱戦 珍プレーも

ロボット選手たちはまるで人間のように入りなを駆け抜けました。100メートル走や1500メートル走などの陸上競技ではコーナーを曲がりながらも全力で走り、観客を沸かせました。

出典:産経ニュース



人型ロボットの世界大会が、北京で3日間にわたり開催された

皆さん、こんにちは。  
今年の春から霧島市の国際交流員として着任しました  
林佳弥と申します！

この二カ月は本当に暑い日が続きました。  
日本の夏といえば花火大会！

霧島の皆さんも、美しい夏のひとときを  
思い切り楽しまれたでしょうか。  
私の故郷・中国でも、この夏には  
さまざまなイベントが行われました。

今号では、その様子を少しご紹介したいと思います。

出典:FNN  
プライムオンライン



出典:日テレNEWS



中国政府 ハイテク産業の育成目指す国家戦略  
狙い 世界に向け技術の進歩をアピールか

また、サッカー競技では各チーム5体のロボットがフィールドを駆け回り、激しいボールの奪い合いを繰り広げました。

たまたま、ロボット選手が転んだ拍子に隣の選手を巻き込んでしまい、まるでドミノ倒しのように次々と倒れていく場面もありましたが、倒れたロボットが自力で起き上がる場面も見られました。

出典:日テレNEWS



お互いガッツポーズで挑発していますね

キックボクシングの試合ではロボット同士が拳や蹴りを繰り出し、白熱した攻防戦が展開されました。

競技だけではなく、科学技術と文化、生活の融合も見られました。開会式では伝統劇の「秦俑魂」が上演されました。会場脇のロボットキャンプでは、人々がペット型ロボットと記念撮影し、ロボットが淹れるコーヒーを味わい、笑い声が絶えませんでした。

中国は人型ロボットを新興産業の柱と位置付け、2025年を「人型ロボット量産化元年」と宣言するなど技術育成に力を入れています。

大会は大きな注目を集めたため、来年以降も継続開催の見通しで、世界への技術発信の場として期待されています。



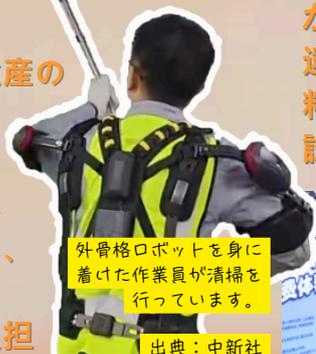
### 外骨格ロボットで登山！ 中国観光地でブーム…

ロボット運動会の熱気が冷めやらぬ中、すでに中国では「登山を助けるロボット」が観光地で話題を呼んでいます。外骨格ロボット（パワードスーツ、パワーアシストスーツとも呼ばれる）は、わずか1.8キロの重量ですが、強力な登山支援を提供することができます。先進的な人間工学に基づいた設計、動力システム、AIアルゴリズムにより、観光客の下肢の運動傾向を正確に感知し、動き出す瞬間や勢いを把握して演算処理を行うことで、装着した人の動作に適切な支援を提供することができます。

これまででは工場の作業やりハビリ用途の医療現場が中心でしたが、最近では観光分野にも応用され始めています。

たとえば世界遺産の八達嶺長城や、黄山・泰山

といった有名な山岳景勝地では、急な石段の登り降りが大きな負担となりますが、外骨格ロボットを装着することで楽に歩けるようになります。



外骨格ロボットを身に着けた作業員が清掃を行っています。

出典：中新社

サービス形態は場所によって異なり、泰山では区間ごとにバッテリー1個につき約1600円のレンタルが提供されています。一方で、八達嶺長城など一部の観光地では無料体験も行われ、多くの観光客が試してみる姿が見られました。



出典：中新社

さらに驚くべきは、この外骨格ロボットの一般販売も始まっていることです。1台あたりの価格はおよそ1万ドル（約150万円）で、自宅でのトレーニングや高齢者の生活補助に使えるモデルとして注目されています。

観光客が最新テクノロジーを楽しみつつ、社会全体では介護や労働負担軽減の解決策としても期待される——外骨格ロボットはまさに「未来がもう始まっている」ことを実感させてくれる存在となっています。



## 小さな命が紡ぐ 平和への願い

### ～北京で反ファシズム勝利 80周年式典～

テクノロジーの話題から少し視点を変えて、平和の大切さを考えましょう。

2025年9月3日、北京天安門広場で8万羽の鳩が一斉に放たれ、青空へと羽ばたいていきました。

この鳩たちは、市民が飼育する60万羽の中から選ばれた「鳩のエリート」です。中には、1997年の香港返還式典で香港から2000キロ以上を飛んで無事北京に戻った「伝説の鳩」の子孫も含まれているそうです。

一羽一羽の鳩が、家庭の思いと歴史の記憶を背負いながら、平和の象徴として羽ばたく姿は、小さな命と人々の願いが交わる感動的な光景となりました。

出典：央视网



もちろん、時には迷子になる鳩もいます。市民たちは温かく迎え入れ、「迷子の鳩も、式典に参加した立派な鳩だ！」などと喜んで世話をしました。

こうして鳩たちが空へと羽ばたいたのは、2025年9月3日午前、北京天安門広場で開催された「中国人民抗日戦争暨世界反ファシズム戦争勝利80周年記念大会」式典での一幕でした。

出典：央视网



式典では部隊の閲兵も行われ、習近平国家主席は次のように強調しました。「人類は同じ地球に生きている。共に助け合い、平和に共存すべきであり、弱肉強食の法則に戻るべきではない」。

さらに「中国は永遠に覇権を求めず、拡張を行わない。過去に経験した悲惨な歴史を他国に押し付けることもない」と宣言。中国は憲法や党の規約に「平和発展」を明記している国として、現行国際秩序の受益者・維持者であり、戦争の惨禍を繰り返さないことを誓いました。

中国CIRとして日本に滞在している私自身も、この式典の光景に強く心を打たれました。中日友好の時代に生まれ、学校教育でも常に教えられてきたのは「平和を大切にすること」「戦争に反対すること」ということです。

8万羽の鳩の大飛行は、まさに「小さな命が紡ぐ平和の祈り」でした。テクノロジーやロボットのニュースが世間を賑わせる今だからこそ、人々の願いと記憶を託された鳩の姿は、より強く心に響いたのではないのでしょうか。



## 10月のイベント

10月09日(木)

「五感で巡る中国の美  
～中秋の月によせて～」

中国の伝統行事「中秋節」とその風習の紹介や、灯籠作り体験を通して、中秋の魅力を感じましょう。

10月30日(木)

「北米北欧トーク  
～ハロウィーン編～」

昔のヨーロッパの様々な伝統や祝日に遡る「ハロウィーン」の歴史に触れながら、現代までの変化や、今のアメリカでどうやってお祝いされているのか解説します。

発行：霧島市役所  
市民活動推進課  
市民環境政策  
国際交流グループ

連絡先：64-0924(内線1532)

異文化交流講座へのご予約は  
お気軽にお電話ください！